

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	野木町煉瓦窯1周年感謝祭		(2) 新規・継続評価の別		新規
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	生涯学習課
	分野別目標	地域の魅力を活かしたまちづくり		係	交流センター係
	施策分野	観光振興	(5) 主担当者区分	主事	
	施策	観光資源の整備と活用	(6) 関連する課	産業課 未来開発課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方	実施期間	5月20日 ~	
	事業内容	国の重要文化財である「野木町煉瓦窯」の一般公開と野木ホフマン館が平成28年5月10日オープンした。オープンを記念し「1周年感謝祭」を開催した。感謝祭では、煉瓦窯見学会、体験ワークショップ、模擬店等を開催し多くの方の来場をいただいた。			
	前年度から改善した点				

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	9 款	4 項	5 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	0	46,292	79,881	0	0
		事業費等		千円	0	27,711	55,908	0	0
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円			1,054		
			地方債	千円					
			その他	千円		1,872	2,193		
			一般財源	千円		25,839	52,661		
		人件費		千円×人役	0	18,581	23,973	0	0
		正規職員	千円×人役	6,160 ×	6,160 × 3.00	5,968 × 4.00	5,968 ×	5,968 ×	
	正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	402 × 0.25	402 × 0.25	402 ×	402 ×		
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段 ・煉瓦窯公開 ・れんがに触れよう ・遊水地の生き物に触れよう ・特別企画展(1年の振り返り) ・石窯料理体験 ・模擬店 ・その他ポスター、チラシ、報道機関等の周知	指標名	単位	平成28年度			平成29年度			
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	
				煉瓦窯見学者数	人			300	350	116.7
				遊水地の生き物 参加者数	人			100	100	100.0
	れんが・石窯ワークショップ参加者数	人			50	70	140.0			
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果 ・日本に残る貴重な産業遺産である野木町煉瓦窯の魅力が町内外に発信できた。 ・学習、観光、地域振興の拠点としてのホフマン館のPRに貢献できた。 ・渡良瀬遊水地や歴史的資源豊かな立地を活かした回遊拠点としての施設の魅力を周知できた。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度			
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	
							900	1,000	111.1	
							0	0		

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	明治期の近代産業の発展に貢献した煉瓦窯とその重要性が広く認識されたこと。また、文化財を保存することはもちろんのこと、文化財を観光連携の一環として捉え新たな観光資源として活用することが重要。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	新たな観光資源として、文化財を活かした取り組みが今後重要である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 D. 民間活力を活用した方が良い	理由	各種事業・イベント開催に当たり、ホフマン館に関わる人材の活用が大きく、新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 B. 検討の余地あり	理由	春のイベントとしては、新年度早々の時期開催で、準備期間等の不足が懸念され、他課特に観光部局との連携が今後必要になってくる。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 B. 概ね保たれている	理由	これまで多くの予算を伴った煉瓦窯修復、施設の整備であり、多くの方の窯見学、施設の利用が本来の設置目的であることから、できるだけ受益者負担の原則を踏まえて、今後も来場いただける各種事業を実施していくことが多くの町民・近隣住民の利用に繋がる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	特に煉瓦窯の見学料については、今後の検討課題であり、他の事業については妥当性あった。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	新たに観光資源として、文化財を活かした取り組みが今後重要である。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	・今後も内容、協力団体の支援等創意工夫をしながら継続する。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	春のイベントとして開催時期の見直を含めて、ホフマン館が観光の拠点という設置目的からも町観光協会・観光主管課との連携し、イベント統合若しくは協働開催という手法を取ることが経費の節減、事業の効率化、観光振興が今後期待できる。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			B. 事業改善	グランドオープンを記念した「感謝祭」として次年度以降も継続していくことになるが、春のイベントが他課との重複があり今後統合等見直しが必要である。野木町煉瓦窯を活かした事業、文化財等を観光資源として活用する事業は、担当課の単独事業ではなく、観光サイドからの連携が今後の集客にも繋がり効果が見込め、観光振興にも綱がる。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			B. 事業改善	文化財担当課単独のイベントではなく、他課との共同開催なども視野に入れて再検討をおこなうことも必要である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	煉瓦窯夏フェスタ		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	生涯学習課
	分野別目標	地域の魅力を活かしたまちづくり		係	交流センター係
	施策分野	観光振興	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	観光資源の整備と活用	(6) 関連する課	産業課 未来開発課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方	実施期間	7月28日 ~ 7月30日
	事業内容	28年度以前は、夏のひまわりフェスティバル期間に併せて修復中の煉瓦窯を特別公開してきた。その後28年5月の煉瓦窯・ホフマン館のオープンを契機に、煉瓦窯見学者の集客、賑わい創出、多くの方に来館してもらい目的で従来のひまわりフェス特別公開を兼ねたホフマン館独自のイベントとして「野木町煉瓦窯夏フェスタ」の開催となった。夏フェスタでは、煉瓦窯の特別公開(ガイドによる無料見学)、ワークショップ、スタンプラリー、模擬店などの事業を開催した。		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	款	項	目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	0	0	45,716	79,881	0
		事業費等		千円	0	0	27,711	55,908	0
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円				1,054	
			地方債	千円					
			その他	千円			1,872	2,193	
		一般財源	千円			25,839	52,661		
		人件費		千円×人役	0	0	18,005	23,973	0
正規職員		千円×人役	6,160 ×	6,160 ×	5,968 × 3.00	5,968 × 4.00	5,968 ×		
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	402 ×	402 × 0.25	402 × 0.25	402 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段 ・煉瓦窯の公開 ・スタンプラリー ・コンテナコンテスト ・ワークショップ(よしず編み、よし紙すき) ・煉瓦積体験 ・企画展(昆虫)、昆虫おもしろ講座 ・模擬店・チラシ作成並びに各社報道機関を使った周知	指標名	単位	平成28年度			平成29年度				
				目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				煉瓦窯見学者数(期間)	人		1,702		1,000	1,212	121.2
				スタンプラリー参加者数	人				300	220	73.3
昆虫おもしろ講座受講者数	人				50	20	40.0				
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果 ・日本に残る貴重な産業遺産である野木町煉瓦窯の魅力を町内外に発信できた。 ・学習、観光、地域振興の拠点としてのホフマン館のPRに貢献できた。 ・渡良瀬遊水地や歴史的資源豊かな立地を活かした回遊拠点としての施設の魅力を周知できた。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度				
				目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				来館者数(期間)	人		2,553		2,000	2,489	124.5

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	グランドオープン以降の四季のイベントとして、夏のひまわりフェスに合わせた夏フェスタを開催した。近代産業の一役を担った煉瓦窯とその重要性が広く認識されたこと。また、文化財を観光連携の一環として捉え新たな資源としての活用が重要。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 C. ニーズが減少している事業である	理由	新たな観光資源として、また煉瓦窯敷地内の環境を活かして集客を図り、文化財を活かした取り組みがさらに重要となる。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 C. 検討の余地あり	理由	各種事業・イベント開催に当たり、ホフマン館に関わる人材の活用が大きく、新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 B. 検討の余地あり	理由	ひまわりフェスとの共同開催であったが、予想より煉瓦窯への回遊が少ないため開催期間の短縮若しくはイベント内容の根本的な見直しが必要である。近年の猛暑から健康対策を考慮が必要である。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 B. 概ね保たれている	理由	事業経費は低予算に抑えられ、来場いただいた方々に町の宝として煉瓦窯の重要性、今後の保存継承等の必要性が認識してもらえたこと、さらに今後の集客に繋がる周知ができたことを考えると受益者負担の公平性はあるといえる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	今後の集客に繋がることを考えると妥当性があるといえる。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	夏のイベントとして、新たな内容で再検討すべきである。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	夏のイベントとして、新たな内容で再検討し、継続すべきである。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	ひまわりフェスとの共同開催であるが、夏場のイベントであり健康対策、ひまわり会場からの回遊が少ないことから2日間の開催から1日間の開催への短縮、さらには生涯学習・産業課それぞれ夏の猛暑時期のイベント競合開催は見直し、ホフマン館室内で実施できる独自の事業に切り替える等見直しが必要がある。また、夏フェスタでは多くの職員がひまわり協力職員として参加し、夏フェスタでの職員協力が難しい現状がある。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 B. 事業改善	今後の方向性 季節ごとに野木町煉瓦窯を活かした事業を実施することは多くの集客に繋がり一定の効果はあるが、今後費用効果を見極めながら実施していく事は重要である。夏場であり職員スタッフの負担を考慮し、開催期間の検討が必要。
		所属長	評価	今後の方向性
	2次評価		所属長	B. 事業改善
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	れんがまつり		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	生涯学習課
	分野別目標	地域の魅力を活かしたまちづくり		係	交流センター係
	施策分野	観光振興	(5) 主担当者区分	主事	
	施策	観光資源の整備と活用	(6) 関連する課	産業課 未来開発課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方	実施期間	10月7日 ~ 10月8日
	事業内容	秋のメタセコイアの並木と国の重要文化財である「野木町煉瓦窯」の魅力を感じていただけるよう、夏フェスに続き秋のイベントとして、れんがまつりを開催した。秋の煉瓦窯で、学んで、作って、味わってをテーマに秋の時期の10月7日～8日の2日間の開催。		
	前年度から改善した点			

会 計	010 一般会計		予算科目		款		項		目		
	区 分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)				
(2) 投入 コスト	事業費	コスト総額	千円	0	0	45,716	79,881	0			
		事業費等	千円	0	0	27,711	55,908	0			
		財源内訳	国支出金	千円							
			県支出金	千円				1,054			
			地方債	千円							
			その他	千円			1,872	2,193			
		一般財源	千円			25,839	52,661				
		人件費	千円×人役	0	0	18,005	23,973	0			
		正規職員	千円×人役	6,160 ×	6,160 ×	5,968 × 3.00	5,968 × 4.00	5,968 ×			
		正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	402 ×	402 × 0.25	402 × 0.25	402 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×					

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段 ・煉瓦窯公開 ・シンポジウム、基調講演、パネルディスカッション ・ワークショップ ・野外コンサート ・マルシェ、模擬店 ・近隣交流茶会	指標名	単位	平成28年度			平成29年度			
				目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)	
				煉瓦窯見学者数(期間)	人	1,202		700	644	92.0
				シンポジウム参加者数	人			200	120	60.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果 ・日本に残る貴重な産業遺産である野木町煉瓦窯の魅力が町内外に発信できた。 ・学習、観光、地域振興の拠点としてのホフマン館のPRに貢献できた。 ・渡良瀬遊水地や歴史的資源豊かな立地を活かした回遊拠点としての施設の魅力を周知できた。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度			
				目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)	
				来館者数(期間)		6,000		2,000	4,200	210.0

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	グランドオープン以降の四季のイベントとして、れんがまつりを開催した。近代産業の一役を担った煉瓦窯とその重要性が広く認識されたこと。また、文化財を観光連携の一環として捉え新たな観光資源として活用することが重要。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	新たな観光資源として、文化財を活かした取り組みが今後重要である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	各種事業・イベント開催に当たり、ホフマン館に関わる人材の養成と新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	2回目の開催であったが、イベント内容に伴う予算的な費用を精査し次年度に反映する。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 B. 概ね保たれている	理由	事業経費は経費の節減になるべく考慮して実施した。来場者には煉瓦窯の重要性、今後の保存継承等の必要性が認識してもらえたこと、さらに今後の集客に繋がる周知ができたことを考えると受益者負担の公平性はあるといえる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	今後の集客に繋がることを考えると妥当性があるといえる。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	れんがまつり自体のイベントはもう少し継続すべきであるが、2年後の活性化の補助事業の終了に伴う新たな事業見直しが必要。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	煉瓦窯を活かした活性化事業(補助事業)の終了に伴う新たな事業見直しが必要。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>秋のれんがまつりについては、活性化事業の補助対象期間は継続して実施していくことが必要で、補助期間が満了するH33年度は、経費的な側面でイベント内容を大幅に見直しが必要である。また、開催期間も財政的な側面から、次年度は2日間から1日間に短縮することも検討項目である。</p>			
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 当面は事業の継続が必要である。季節ごとに野木町煉瓦窯を活かした事業を実施することは多くの集客に繋がり効果があるが、今後費用効果を見極めながら実施していく。文化財等を観光資源として活用する事業は重要である。職員スタッフの負担を考慮し、開催期間の検討が必要。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
	3次評価		町長	評価 B. 事業改善

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	煉瓦窯冬フェスタ		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	生涯学習課
	分野別目標	地域の魅力を活かしたまちづくり		係	交流センター係
	施策分野	観光振興	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	観光資源の整備と活用	(6) 関連する課	産業課 未来開発課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方	実施期間	12月2日 ~
	事業内容	四季のイベントの一つとして、冬フェスタを開催。冬にきらめく幻想的な光のページェントをテーマに12月2日、メタセコイアの並木他にイルミネーションとナイトイルミネーションなどで冬の煉瓦窯を演出した。		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	款	項	目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額	千円	0	46,292	79,820	0	0	
		事業費等	千円	0	27,711	55,908	0	0	
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円			1,054		
			地方債	千円					
			その他	千円		1,872	2,193		
		一般財源	千円		25,839	52,661			
		人件費	千円×人役	0	18,581	23,912	0	0	
正規職員		千円×人役	6,160 ×	6,160 × 3.00	5,968 × 4.00	5,968 ×	5,968 ×		
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	402 × 0.25	402 × 0.10	402 ×	402 ×			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段 ・イルミネーション点灯式 ・イルミネ公開 ・石窯料理、ハート型ペンダント、バンブー キャンドル作りのワークショップ ・ナイトグロー ・ウッドキャンドルナイト	指標名	単位	平成28年度			平成29年度			
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	
				煉瓦窯見学者数		509		300	88	29.3
				ワークショップ参加者数				120	131	109.2
キャンドルナイト参加者数				40	25	62.5				
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果 ・日本に残る貴重な産業遺産である野木町 煉瓦窯の魅力を町内外に発信できた。 ・学習、観光、地域振興の拠点としてのホフ マン館のPRに貢献できた。 ・渡良瀬遊水地や歴史的資源豊かな立地を 活かした回遊拠点としての施設の魅力を周 知できた。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度			
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	
				来場者数		2,029		1,000	1,000	100.0

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 B. 一部結びつく	理由 グランドオープン以降の四季のイベントとして、冬フェスタを開催した。近代産業の一役を担った煉瓦窯とその重要性が広く認識されたこと。また、文化財を観光連携の一環として捉え新たななか資源として活用することが重要。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由 新たな観光資源として、文化財を活かした取り組みが今後重要である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 D. 民間活力を活用した方が良い	理由 各種事業・イベント開催に当たり、ホフマン館に関わる人材の養成と新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由 冬場のイベントがなく賑わい創出には効果的であった。28年度は電源工事等の初期投資があったが、次年度以降は抑制できる。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 B. 概ね保たれている	理由 冬場のイベントとして定着でき、多くの集客に繋がって、窯保存継承等の必要性が認識してもらえたことを考えると受益者負担の公平性はあるといえる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由 今後の集客に繋がることを考えると妥当性があるといえる。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由 冬のイベントであるため、午前中の来場者が少なかったため、一部内容を変更したが、新たな地域振興、賑わい創出に貢献できた。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由 冬のイベントとして継続していく。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	主担当者	冬のイベントであるため午前中の人出が予想より少なかったため次回の改善課題として残った。冬のイベントとしてのイルミネーションは観光主管課でのイベントとしての実績があるが、今後は駅前と煉瓦窯を活用したイルミネーションの開催として位置付け、ホフマン館と観光部局が連携をとり1つのイベントが実施できれば、より費用効果があり集客やもじどり観光の推進に貢献できると考えられる。いずれにしても、ホフマン館が観光・学習の拠点であること、H30年度の機構改革により観光部署が独立拡大したことからその組織の見直しの目的に合致できるよう、イベントの根本的な見直す機会である。	
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	<p>評価 B. 事業改善</p> <p>今後の方向性 年間を通してのイベントとして冬フェスタを実施したが、ホフマン館での周知度を維持するため継続性を持って続けることが重要である。今後はやり方を検討し(観光との連携を強化)よりイベント自体が拡大し、賑わいが創出できると考え、創意工夫をしながらこの施設を最大活かして行かなければならない。</p>
	2次評価	所属長	<p>評価 B. 事業改善</p> <p>今後の方向性 冬のイベントでもあることから昼間の集客が問題である。今後は夜のイベント特化するなど再検討を行う必要がある。</p>
	3次評価	町長	<p>評価</p> <p>今後の方向性</p>